

令和7年度第1回松前町総合教育会議 議事録

<日時>

令和8年2月4日（水）9時00分～10時52分

<場所>

松前町役場4階 401会議室

<出席者>

【松前町】

田中町長（議長）

【教育委員会】

足立教育長、渡部教育委員、坪内教育委員、郷田教育委員、廣藤教育委員

【事務局】

[松前町]大川総務部長、中村財政課長、戸井田企画政策室長（進行・庶務）

[教育委員会]住田教育委員会事務局長、柏原学校教育課長、三原社会教育課長

<議事>

- (1) 今後の小中学校の在り方について
- (2) 教育への取組に対する意見交換
- (3) 教職員の働き方改革について

<議事内容>

【戸井田企画政策室長】

ただいまから令和7年度第1回松前町総合教育会議を開催いたします。

松前町総合教育会議設置要綱第6条では、会議の公開を規定しており、本会議は、公開するものとされています。本日は、外で傍聴希望者が待機しておりますので、入室の御案内をしたいと思います。

【戸井田企画政策室長】

それでは、会次第によりまして進めて参ります。初めに、田中町長が開会の御挨拶を申し上げます。

【田中町長】

皆さんおはようございます。日頃より本町の教育行政に御尽力いただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。また、本日は御多忙の中御参集いただき、誠にありがとうございます。

さて、現在、日本全体が直面している人口減少と少子高齢化の波は、ここ松前町においても例外ではありません。児童生徒数が減少する中で、子どもたちにとって最適な学びの場をいかにして維持していくか。本町の将来の教育環境も、抜本的な再構築を考える局面に入ってきているのではないかと感じています。そして、その学びを支える「教職員の働き方」についても同様だと思っています。教師が子ども一人ひとりと向き合い、適切に指導に当たるためには、これまでの慣習にとらわれない業務改革や、地域・外部との連携を考慮した新しい学校運営の形についても検討する必要と思います。

「教育環境の持続可能性」と「子どもたちの最善の利益」の両立を図るためにどうす

るか、難しい課題であります。皆様の忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【戸井田企画政策室長】

ありがとうございました。それでは、早速議題に入りますが、松前町総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により、町長が議長となります。

この後の会の進行は、田中町長にお願いします。

【田中町長】

それでは、議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

議事に入る前に、設置要綱第7条第2項の規定により、議長が議事録に署名する構成員2名の指名を行います。郷田委員と廣藤委員の2名を指名させていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは、早速、議題に入りたいと思いますので、事務局の説明をお願いします。

【柏原学校教育課長】

議案1、今後の小中学校のあり方について御説明いたします。資料2ページを御覧ください。この資料は、文部科学省作成資料の抜粋で、タイトルのとおり、小中学校の適正規模・適正配置に関する基本的な考え方が示されています。ここでは、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくという特質を踏まえると、学校については、一定の規模を確保することが望ましいとし、学校規模・学級数の標準は、小中学校ともに、12学級以上18学級以下とされています。

続きまして、資料1（別冊）の1ページを御覧ください。松前町立小中学校児童生徒数の推移及び推計を示しています。この資料は、少し古いデータでございますが、国立社会保障・人口問題研究所が令和2年（2020年）を基準として推計した人口指数に基づいて試算したものです。これによると今後、児童生徒数は減少の一途となり、2050年（令和32年）には853人減の1,642人となります。

2ページを御覧ください。令和7年度の児童生徒数・学級数です。左側が小中学校毎の児童生徒数、右側が学級数です。学級数を見ますと、北伊予校区は概ね2クラス・岡田校区は3クラス・松前校区は4クラスで、北伊予小学校及び岡田小学校は学校規模の標準に当てはまっており、松前小学校は大規模校になります。また、中学校は、いずれも3学年であることから、少規模校の位置付けとなっています。

次のページをお開きください。3ページが小学校児童数のこれまでの推移と今後の推計で、4ページが学級数の推移です。黄色の網かけで示す数値は、2025年度の住民基本台帳の出生数に基づき、1年毎に1歳ずつ出生数をスライドさせた短期的な推計値で、社会的要因を除けば、いずれの小学校も減少傾向です。特に北伊予小学校は減少傾向が顕著で、2031年の学級数11は、1年生が1クラスになることを示しています。

次のページをお開きください。5ページが中学校の生徒数、6ページが学級数を示しています。生徒数のグラフを見ると、緑色で示す松前中学校は、2031年まで横ばいで、現状を維持していますが、オレンジ色の岡田中学校及び青色の北伊予中学校は減少傾向です。6ページのクラスの推移で2026年度以降の学級数が現在より高くなっているのは、学級編制が1学級あたり40人から35人に段階的に変更されることの影響です。

7 ページを御覧ください。松前町公共施設等総合管理計画（個別施設計画）一覧表になります。文字が小さく申し訳ありません。左側の令和7年度（2025年度）を起点として右側令和16年（2034年度）までの10年間の建物改修計画を示しています。背景が緑色の行が学校関係施設で、オレンジ色が大規模改修、黄色が中規模改修を示しています。学校施設については、今後、切れ目なく改修の必要性があることを示しており、このあと、令和17年度以降も施設改修の必要性が続くことが考えられます。以上が小中学校を取り巻く児童生徒数、学級数の長期的推移、短期的推移、施設管理の状況です。

資料1の2ページにお戻りください。点線の枠内になりますが、学校規模の適正化の検討は、あくまでも児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に据え、学校教育の目的や目標をよりよく実現するために行うべきとされ、下の矢印のとおり、統廃合することも、小規模校として存続させることも、設置者である自治体が判断するとされています。

次のページ以降は、適正規模・正規配置等を検討するにあたっての基本的な方向性や考慮すべき要素、留意事項などについて、文部科学省から手引きとして示されているものです。

7 ページ、8 ページをお開きください。学校の統廃合とは別の手法として、小中一貫教育に関する資料を掲載しております。

以上で、「今後の小中学校の在り方について」の説明を終わります。

【田中町長】

ありがとうございました。それでは事務局の説明に対して御意見、御質問をお伺いしたいと思います。

【田中町長】

なければ、私から発言よろしいでしょうか。

今回の会議で諮りたい案件の一つでもあります。事務局の説明のとおり、松前・北伊予・岡田の中でも突出して北伊予の減少率が高い状態が見込まれ、私の母校の地域でもあります。人口減少の波が抑えきれない。先日、県知事も愛媛県人口の下方修正をしましたが、必ずこのとおり減少すると思います。社人研が出している推計はほぼ狂わない推計と言われているので、恐らく松前町においても人口推計どおり推移すると思います。多少の上振れ下振れはあるかもしれないですけど、リスクとしては下振れリスクの方が高いと思います。第一次ベビーブームがあり、第二次ベビーブームがあったが第三次はこの国は生まれていない。その時点で本当は気付くべきだったと思いますが、第一次ベビーブームが75歳団塊の世代、第二次ベビーブームが50歳から40歳の半ばぐらい。大体20から25歳スパンでこの波の山が来ますが、山がない以上、次の25歳の適齢期の人たちが順調に出生数、出生率を上げたとしても、母数が全く違うので、第一次、第二次のような山を起こすのはかなりハードルが高くなります。今2人、3人子どもを産む人が少ない中で、今の25歳の人賃上げがあるからといって、4人、5人産む社会になるかということとてもじゃないが難しい。この国の人口増は相当ハードルが高いと思います。

松前町でどうするかというと、やっぱり松前町という場所はすごく場所がいい。平野部しかなく、小中の校区バランスもいい。ただ、松前エリア・岡田エリアと比べて北伊

予が違うのは調整区域であることです。人が増える見込みがなかなか立たない。松前・岡田の役場周辺地域はもしかすると人口増をする可能性があるが、北伊予はほぼない状態かなと思っています。調整区域が外れることもまずないと思いますし、北伊予が取れる手段は、例えばJR線があるので、駅周辺に地区計画というのを作って住宅エリアを形成していく手法があるとは思いますが。

校区は維持したいと思っています。70年前に合併した町ではありますが、それぞれの文化や人の営みが残っているので私は維持すべきだろうと。では、最適化をするためにはどうしたらいいか考えると、北伊予は元々私たちの親、つまり団塊の世代に子どもが増えた際、北伊予小学校敷地内に小中学校があったものを分離させたんですね。そういう背景があって、今北伊予の人口が減少していくのが見込まれるのであれば私は母校ではあるんですが同じ敷地内に戻していくのも、効率化だけではなくて教育の質を上げるという面でも、教育投資をするために必要なのかなと。北伊予は中学に上がる際は校舎が隣の校舎に行くという感じなので、一緒でも離れてもあまり変わらないと思う。

また、学校の中規模改修は小学校の後に中学校が控えている。これをすべきかどうかの判断にも関わってくる。このまま改修すると、クラス減少の後に空きが出始める。なのに、小学校・中学校ともに改修するのか。管理計画上の金額は現在の物価高騰により倍くらいの改修費がかかると思うので、本当にこのまま改修すべきなのか。それであれば、昔の形に戻して行って、削減したお金を教育の環境に回せるようにしたほうが子どもたちにとってベストではないかと思う。思いとしては、私も卒業した学校なのでそれぞれ残したいという思いは皆あると思いますが、子ども中心で考えるとどうだろうと思います。最善を尽くすためには教育投資の在り方としてハードではなくソフトの方に移行させたほうが、子どもにとっていい教育を提供してあげられるのではないかと。その残し方として、義務教育学校のスタイルがいいのか、それとも小学校敷地内での小中学校併設がいいのか。北伊予は元々小学校の敷地内に小中学校があったということと、グラウンドも小学校のほうが広いので、小学校側に持ってくるほうがいいのではないかと。これは案の一つですが、北伊予について本当に考えないといけない局面に入ったと思います。

委員の皆さんも先生をされていた経験から御意見をお聞かせいただきたいと思えます。

【足立教育長】

町長とは何度かこの話をしているんですが、人口減少の中、適正規模を含めた将来の学校の在り方を考える時期にいるのではないかと思います。いろいろな案があると思いますが、各校区それぞれの特色あるまま維持していく方向なのか、又は松前町を一つの町として融合してつながりを強くしていく方向なのか。ただ、小学校を無くすと子どもの通学等のことを考えるとやはり小学校は3校維持したほうがいいのではないかと。そうすると、中学校の段階で松前町の3つの中学校を統合する方法も考えられる。町長が言われたように校区を維持していくという視点で考えると、全国的に少しずつ進んできている義務教育学校を含めた小中の一貫教育を北伊予松前岡田で考えていくのも一つではないかと。3校区全てではなくて、北伊予校区の人口減少が顕著に出てきているという心配をされていましたが、松前町の中で特色ある教育の一つとして義務教育学校なり

一貫校をどこかの校区に作ることも考えられるが、気を付けなければならないのは、校区制を考えなければいけないのではないかと。例えば、北伊予に9年間の一貫学校を作ったときに、もしかすると9年間同じ学校に行くことに懸念を持つ子どもや親もいるかもしれないし、逆にそうした学校に行きたいという松前・岡田の子どもや親もいるかもしれない。北伊予に特色のある学校を作るとなると、北伊予の子どもしか行けないという仕組みはどうなのかということも考えないといけない。校区制についてもどうするかなど。

一つ懸念されるのは、北伊予の人口減少から考えて、先ほど学校教育課長が、近い将来小学校1年生が1クラスになる可能性があるという説明があったが、それがもし続くと、一貫校にして9年間1クラスになってしまう。これが子どもたちの教育の効果、在り方を考えたときにどうなのかという課題も見えてくるのではと感じている。なので、いくつかの方法がある中で、そういった議論をいろんな意見を聞きながら将来的な方向を考えていかなければならないと私自身は思っています。

【田中町長】

確かに、もし1クラスだった場合9年間ずっとクラスが変わらないということですね。

【足立教育長】

私は学校に勤めていましたので、どうしても年度末の懇談会の際は保護者や子どもから学級編制を友達関係で考えて欲しいという話も数名出てくるので、学級編制ができる環境というのにも必要なのかなと。1クラスを9年間続けなければ環境は学校へ行くのがしんどいという言葉が出てきそうな気もする。そういう状況があれば弾力的に他の小中学校に行けるということが当たり前になるといいのですが。

【田中町長】

他の学校に行けるようにすればいいが、今は原則できないですよ。もし何かあれば岡田・松前に行けるように弾力化することが必要になってくるか。

【足立教育長】

もし1クラス9年間という状況であれば、校区の弾力化は必要になってくる。

【田中町長】

教育長の話の最初にありましたが、校区を束ねるといのはかなり厳しいと思う。私も過去に考えたことがあったんですが、松前は小さいように見えて、松山に置き換えると横の長さは垣生から石井くらいまである。この広さを1校にすると港南や砥部よりも広くなる。3つの校区を1つの中学校とするとかなり広いのでさすがに物理的に不可能かなと思う。であれば、小中をセットにする方がまだ校区が残って、敷地は一緒になるが小中学校は残るという状態を作って校区も維持できるかなと思ったのが一つあります。昔は1校とすることも考えたことがあったんですよ。10年前くらいですが。なぜ松前町はずっと3校区のままなんだろうと考えたこともありましたが、よく考えるとさすがに、親になってみても思いますし、1校区は現実的じゃないかなと今は思っています。

北伊予がこの状況であれば、小中学校を一緒にして、クラスが1クラスにならないように、2クラスをキープできるような仕掛けも必要になる。先ほど言ったとおり、駅周

辺に住宅地形成ができるような仕掛けをしていくなど。他のエリアはなかなか市街化調整の撤廃が県・国から認められないと思うし、松前町の場合は都市計画と言いますが土地利用は松山広域都市圏の網がかかっているの、恐らく周辺部も市街化調整の撤廃に賛同してくれるかどうか分からない。撤廃すると松前町に人が集中するのはどうかという意見も周りからあるので。規制がなければ利便性のいいところに必然的に人が流れることから、恐らく北伊予は規制が無くなると宅地形成はすぐだと思えます。そうすると、中山間などは余計にしんどくなる可能性もあるので難しい。全域的にすることは不可能に近い。実現できる方法とすれば、北伊予駅や横田駅周辺を部分的に、渋滞緩和のため公共交通を使えるような団地形成をするという名目の下に住宅地として形成させるという方法が一つあるかなと。

たちまち、次の1年生が40人くらい。もういよいよ本当に1クラスが見え始めているので、1クラス9年間を防ごうと思うと、数を増やすしかない。数を増やすのであれば、人口を誘導する仕掛けも必要であるし、弾力化も必要。3校区で弾力化すれば、北伊予の学級編制もキープできる。小規模校の良さもあるとは思いますが。例えば双海の翠小学校はいい環境の中で子どもが伸び伸び育っているという側面もあり、一方で多い学校は競争の原理でたくましく育つという側面もあるので、そのあたりを考えて選んでもらいたいというのがあるかなと思えますがいかがですか。

【渡部教育委員】

基本的な考え方は、実は私も北伊予なので町長と同じ。やはり北伊予は残したいと言いますか、私は元々松前ではなく松山から来ましたが、こちらへ来て感じるのが、松前・岡田・北伊予というその地域性。なかなか融合しないというか、一本化が難しい地域だなと感じた。校区制というのはやはり地域住民もそれを感じていると思うので、統合となると住民からかなり反発が出るだろうなという気はする。昔の北伊予は小中学校が同じ校庭にあったと私も聞いていたので、以前白石町長も北伊予小中一貫はどうかと言っていた。やはり校舎も近いことや土地利用の関係もあったのかもしれない。北伊予については小中一貫校の1クラスでは可哀そうな部分もあるかもしれないが、小規模校のメリットを最大限生かしながらデメリットを解消していくという方針を十分練り上げていかなければいけないと思う。なので、当面北伊予に絞るのであれば、その方向かなという気はする。松前校区はマンションも建ち、分譲もできて人口が増える可能性があります。岡田が若干減ってくる可能性があるの、そこをどうしていくかという問題はやはり残ります。当面北伊予だけで考えるのであれば、個人的には今言った小中一貫の方向がいいという気はする。

私は余戸ですとと同じ友達で同じクラスでしたが、別に何ら弊害もなく、むしろ仲良く教育ができたなという気持ちの方が多かった。

【田中町長】

メンバーと雰囲気次第ですよ。

【渡部教育委員】

そうですね。ただ、社会が変わってきて、環境も変わってきたので、やはりいじめとかいろいろあるので、先ほども言ったように問題が生じれば希望する学校に行く弾力的な運用が必要だと思う。

【田中町長】

それは必要ですね。

【坪内教育委員】

私は岡田に生まれ、岡田で暮らしています。北伊予小学校には13年間行かせていただいたので、すごく思い出があり、第二の故郷のように感じています。9年間人間関係を保っていかなくてはいけないという辛い子どもの心理状況を考えたときに、本当に教育長の言われるようにいろいろな方策を考えないといけないと思いますが、小中一貫教育の方が、北伊予の良さを活かせるような気もしています。

私が北伊予に赴任したときには、旧校舎がありまして、出作遺跡の展示を並べていた。そして道路側に古い校舎ですが、ちょうど日本で一番初めにできた鉄筋コンクリートの校舎が中央にありましたが、校舎のコンクリートが疲弊してどんどん落ちてきたので、当時の校長たちが国に陳情し今の校舎に変わった。そういう時代に私はいたので、小学校と中学校が同じ敷地内に2つ入るスペースはあると思います。陸上競技もかなり長いコースが取れるので、町内の陸上記録会は全て北伊予で実施していたほどすごく広くていい環境です。

9年間、固定されたクラスというのはすごく辛い子どももいると思います。例えば、へき地などの小規模学校は中学校で他の学校と一緒にになる。小学校で複式などいろいろな経験を経ながら中学校に行って、また別の学校と一緒にになって勉強できるような状況なので、北伊予の場合は固定で9年間続くとなると、町長がおっしゃるように、いろんな方策も考えて小中一貫校の良さが見出せるような取組が必要だと思いますし、もし小中一貫校の制度を取り上げるのであれば、指導主事も何年も前から入ってもらって、現場の先生方と年間計画などいろんな運営を練らないと、これは今現在いる職員だけでは絶対に無理です。なので、もしこうした環境を取り入れるのであれば指導主事も入れて、この本来の目的を達するような取組にして欲しい。

【田中町長】

ありがとうございます。そうですね。一貫にするもしないも、もし1クラス化されたら今の状態のままでもこれは考える必要があるということですね。

もし一貫校にする場合、現場の先生の意見も聞いてみたいと思うんですね。機能の残し方としては各小中学校に校長・教頭のままとするか、1つの一貫校で1人ずつという二通りありますがどうなるんでしょう。

【足立教育長】

義務教育学校では基本的に1つの学校で9年間としているので、校長・教頭も1人ずつにはなるが、こちらの良さは、例えば、今の北伊予中学校は現在2クラスで教員数も少なく、実技系の先生を満足に配置できていないため、美術は非常勤講師に来てもらったり、技術科や家庭科は免許外の先生がやらざるを得ない状況であるが、そうした実技系の先生を小中で場合によっては共有できる。例えば、小学校の中に技術の免許を持った教員が配置できれば、中学校の技術を指導したり、逆に中学校の英語の教員が、小学校の外国語の指導に入ることができるので、子どもたちにとっては免許外の先生に教えてもらわなければいけないという形は減ると思うし、先生の負担も減るのではないかと思う。

ただ、坪内委員が言われたように、義務教育学校は愛媛県でも例がないので、9年間の学校経営なり教育の在り方をどう進めていくかというのは、他県の数少ない例を見ながら研究をしないといけない。小中学校は子どもも一番成長する9年間なので。実際運営していくと、いろいろ課題が出てくるので考えないといけないことは多いのではないかと思います。

【田中町長】

それか、そのままくっつけるだけにするか。

【足立教育長】

そのままいくと何のために一緒になったんだと。ただ単に中学校を移しただけの話になり効果がない。ある地区の町政懇談会で義務教育学校はどうかと聞かれたことがあるが、松前町が特色ある学校作りを進める上では面白いと思う。子どもにとっても、小学校から中学校に入学したとき中1ギャップと呼ばれましたけれども、不登校が増える。小学校と中学校では制度やルールなどいろんなことが違うので、子どもがギャップを感じるというのは一つの課題であった。そういう意味でも9年間同じ敷地の中で、一つの流れで進んでいくのは、親にとっては卒業式入学式が1回ずつ減るので、少し寂しさもあるかもしれないですが。

【田中町長】

そこは減るんですね。附属なんかは一応切れてはいますよね。

【足立教育長】

義務教育学校も恐らく前期課程・後期課程というのが出てくると思うんですけど、入学式・卒業式は基本的に最初と最後だけになってくると思う。

【渡部教育委員】

全国の状況を見たら、やはり義務教育学校の方は少ないですよ。小中一貫の教育をやるとしても。一つは施設の関係もあると思う。元々は小中があって、それを一つの義務教育学校でやろうとしたら、併設型の学校になるとなかなか義務教育学校として運営しにくいということもあるのではないかと思います。また、特色ある教育をやろうとすると、やはり義務教育学校の方がやりやすい気はする。例えば、さっきお話があったように、英語専科の先生も使えるし英語教育を少し特化してやってみようか、などいろいろやり方があるなという気はしている。

【田中町長】

小学校の段階から早めの英語特化の授業が組めたりするということですね。

【郷田教育委員】

義務教育学校にした場合、そこへ行きたいかです。9年は長いですよ。私も中高一貫だったが6年でも長い。入学式、卒業式、修学旅行ともに1回、コンパクトにはなるんですけども。6年間子どもの成長を見ていく間に校長も変わる。9年であればさらに多く校長・教頭が変わる。指導方針は校長がするので、これが度々変わるとその学校の9年の見通した教育が相当難しい。ある程度で切らないと新鮮さが失われる。慣れ親しんだというのもいいが、マンネリ化する。ある程度人間はフレッシュさが必要。そういう点では校舎が変わったりするほうがいいかなと。

最初に言いましたが、小中一貫で9年、親と子はそこに住みたいか。となると、岡田

校区に家を建てたいとならないですかね。移住したいかどうかです。

それから、30人しかいなくても、お金を出せば1クラスでも2クラスでもできる。町長の決断次第です。県や国は補助しないので町単になります。

【田中町長】

実際問題それが難しいので、どこもなかなかできないんでしょうね。

【郷田教育委員】

教員の給料も高いですから。町単で2, 3人増やすとなると大事になる。

【足立教育長】

県や市町単独の教員配置をしているところもある。そこに行って話を聞いたこともあるんですが、厳しいのは厳しい。定数以外の教員を文科から配置があるんですが、その辺も切り崩して学級編制に充てているから、学級担任以外の教員を学級担任に配置してしまうと、それ以外の教員数が逆に減ってしまう。

【郷田教育委員】

私は中学校3校を1校にしたほうがいいと思う。なぜかと言うと、部活動を活性化すること。それから施設改修に莫大なお金がつぎ込まれるんですが、一つにまとめれば日本一素晴らしい学校ができないかなと。場所は松前町の中心に位置する永田の交差点付近がいい。今は土地があるので、今のうちに土地だけでも確保しておかないと将来は家が沢山建ってしまう。お金は、北伊予中学校と岡田中学校が無くなり、松前中学校の建物は新しいので松前小学校にする。すると、松前小学校が無くなるので、無くなった学校を更地にして売って新しい中学校に充てる。それで人口も千人くらい増えると町制から市制に移行できるかもしれない。縮小を考えるならそういう発展させるような方向性がないと。夢と希望のある町にしないといけない。日本一の中学校を作ろうという目標を持って町民の意識をつなげていく。そうすると、他市町から日本一の学校に来たくなるのではないかと。そこに資源を集中するわけです。日本一の中学校となると素晴らしい。伊予高がちょうど4万㎡で単独キャンパスでは一番大きいんですが、町債を発行して3万㎡くらい土地を確保すれば将来3校統合する形で。町民もそういった方向なら賛成するが、単純に1校にすると反対となる。日本一の中学校を作れば人口が千人、二千人か分かりませんが増えるんですよ。そうすれば固定資産税など税収も増えるでしょう。若い人が来るわけですから。生徒数も増えますよ。そういった方向性を見出したらいい。

砥部中や港南中のエリアから見れば松前町のほうが小さくないですか。砥部中管内は松前の面積の何倍もありますよ。伊予高校でも自転車でかなり遠いところから来てますから。松前町のようなコンパクトな町はないでしょう。

【田中町長】

砥部で一番遠くても3kmぐらい。

【郷田教育委員】

松前の東西が7kmなので中心点に中学校を置けばいい。

【田中町長】

確かに。今二択なんですよ。中学校を1校化するのか、北伊予みたいなスタイルを北伊予で実現するのか。

【郷田教育委員】

古い話だが、昔の松山中学の広さはレベルが違う。自転車や電車で行っていた。12歳で。昔と比較すると1校でも距離的には可能ですよ。やっぱり松前町は一つにならないといけない。日本一の中学校を作るんだという目標でやらないといけない。

【田中町長】

3校統合なら目標はいるんですよ。何のためにやるのかという。

【郷田教育委員】

はい。財政云々ではなくてですね。子どもが減るというのももちろんきっかけにはなりますが。これから徐々に人口が減っていくことへの対応で義務教育学校にすることは、将来岡田もそうなりますよ。1クラスの学校がずっとあるよりは、複数のクラスで切磋琢磨が必要。もっと100年くらい先を見てやっていかないといけない。以上です。

【田中町長】

ありがとうございます。1校区がいいのか義務教育学校的な方法がいいのか、それとも現状を維持していくのか。3つの選択肢から選ばなければいけない。人口減少対策は20年前にやっておけば25歳のボリューム増ができていないはずが、それをやってないですよ。もう手遅れ。それは大人が受け入れざるを得ないと思います。そこと向き合えなかったのが30年前にあった。ただ、やってないことを言ってもしょうがないので。縮みゆく中をどう成長するかだと思います。その三択が、郷田委員が言われたように中学校の1校化なのか、はたまた義務教育学校なのか、それとも少なくとも現状維持を頑張っってやっていくか。どれが子どもにとってベストで、親が住みたいか、子どもが行きたいと思うかということも確かに郷田先生の言う大事な視点だと思うので、それらも全部考えてまだまだ議論を深めないといけない。

廣藤委員は現役保護者としてどうでしょうか。

【廣藤教育委員】

私は宇和島出身で、小学校の時は低学年で5クラスあって、高学年になってクラスの人数が増えて4クラスで過ごしました。中学校は1学年9クラスの大規模校で育ってきたので、私が子どもの頃であつたらずっと同じクラスは嫌だなと思った。小中学校併設や義務教育学校という意見も出ていましたが、大規模校で育った私からするとイメージすることが難しいが、例えば、義務教育学校で9年間の一環のカリキュラムとなると、今の松前小中学校みたいに、行事を保護者として見に行く立場としては、例えば運動会で高学年の6年生が先頭に立ってやっているというのが一つ無くなるわけですよ。中学生になる前の6年生の1年間はすごく大事。私は大規模学校で育ってきたので、もちろん競争もあり、多様な意見に触れることも大事だと思う。ずっと1クラスで20、30人だけの意見で9年間育っていくよりも、クラス替えをしながら場所も変わり、いろいろな子どもたちの意見に触れるということは保護者としては大事だと思います。もし義務教育学校になるのであれば、学校に行きたくない子がいる場合は弾力的に他の校区に行けるようにするなど対応が必要。

【田中町長】

ありがとうございます。今日はこの内容を議題としてよかったと思います。いろんな考えを聴けるし、これを町全体に広げないといけないと思う。中学校を一つにするの

か、残すのか、義務教育学校みたいなスタイルをとっていいのかというのはいずれの課題であって、子どもにとっても親にとっても課題なので、ちゃんと取り上げていきたいと、本当にお金の面だけではなくて、皆がいいと思う形を見つけ出さないと、なかなか校長や教育委員会だけで決める話じゃないので、ここから更に議論を深めて町全体の話題にしていきたいと思うので皆さん御指導、御鞭撻のほどよろしく申し上げます。

では、次の議題について御説明をお願いします。

【柏原学校教育課長】

議題第2、教育への取組に対する意見交換。資料2の1ページを御覧ください。令和7年3月に策定した「第3次松前町教育大綱」には、「1 子どもたちのために」、「2 教職員のために」、「3 地域とともに」の3つの目指す方向性と7つの振興方針が示されています。大綱の7つの振興方針に沿って、各年度に取り組むべき各種努力事項等を整理したものが、この「令和7年度松前町教育方針」です。この資料は、それぞれの努力事項に対して、継続して行っている事業とは別に、令和6年度・7年度に、新規事業として取り組んだ事業を青色の文字で記載しています。

具体的には、重点事項2「夢の実現に資する魅力あふれる学校づくり」の努力事項の（1）学校施設・設備の整備では、令和7年度に、中学校プール管理をやめ、中学校水泳指導委託へと移行しました。生徒へのアンケート調査結果は非常に良好で、今後は、既存の中学校プール施設の廃止又は利用方法が課題となっています。また、松前町公共施設等総合計画（個別施設計画）に基づく計画的改修では、老朽化が進む北伊予小学校の大規模改修設計業務に着手しているほか、GIGAスクール一人一台端末を更新し、その通信環境の改善を行っているところです。そのほか、子どもたちの学習・生活の場であるとともに、災害時には避難所として活用される学校の体育館について、空調設備の整備の促進が全国的に求められており、松前町においても、最短で整備を進めるため、全ての小中学校体育館の空調設備整備への着手として設計業務に取り掛かっています。

（2）幼稚園型認定こども園の充実に対しては、令和6年度に、認定こども園への移行に伴う大規模な園舎改修を行うとともに、ICT機器の更新などの整備拡充を図っています。また、令和7年度は、園舎の改修に引き続き、園庭拡張整備に取り掛かかっており、駐車場その他の環境整備を図っているところです。

「3 一人ひとりを見つめる特別支援教育の充実」では、努力事項（2）特別支援巡回教育相談事業等による一人ひとりに応じた支援の充実として、令和6年度には、松前中学校に1名の不登校児童生徒支援員を配置し、続けて、令和7年度には、北伊予中学校及び岡田中学校にそれぞれ1名の支援員を追加して配置し、不登校対策事業を拡充しているところです。また、特別支援教育の経験豊富な特別支援教育指導員を新たに2名配置し、各学校等を巡回して、特別支援教育の相談やアドバイスをすることにより、特別教育支援体制の充実・拡充を図っています。

「4 全ての子どもたちの自信を育み、安心して学べる環境の整備」の努力事項

（2）不登校対策の推進（充実）として、令和7年度は、学校外でサポートする教育支援センター（仮称）整備に向けて、設計業務に着手しており、不登校児童生徒の居場所づくりや学習機会の確保に努めています。

次に、「5 教職員の働きがいのある魅力的な職場づくり」の努力事項（2）における働き方改革の推進に対しては、令和7年度末までに、松前町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（仮称）の策定が義務付けられており、この後の議題3で改めて御説明いたします。

また、（3）部活動改革（休日の部活動の地域展開）に対しては、令和6年度は、松前町部活動地域移行検討委員会を開催し、部活動の在り方の見直しを進め、合同部活動方式による部活動の実施をはじめ、令和7年度は、拠点校方式による部活動として、運動部の3種目で実施を始めています。

次のページを御覧ください。「6 社会総がかりで取り組む教育の推進」では、令和7年度から、小中学校の学校給食の無償化を実施することで、子育て世代の負担を減らす体制づくりを進めています。

「7 スポーツ・文化の振興と生涯学習の推進」としては、スポーツに親しむ環境を整えるとともに、災害時の避難所となる体育館の機能向上に向けて、令和7年度は、松前公園体育館アリーナの空調設備整備へ向けて設計業務に取り掛かっています。

また、努力事項の（1）ホッケーのまちづくり推進事業の充実では、令和7年度には、ホッケー公園において、第55回全国中学校女子ホッケー選手権大会を開催することで、「ホッケーのまちまさき」を県内外に発信したほか、（2）地域の特色を活かした文化祭の開催では、令和7年度に、若者文化と地域の魅力が融合する、新しい松前町の祭典として、松前町制70周年記念事業の一環として「まさきエンタメフェスタ2025」を開催いたしました。eスポーツ「太鼓の達人王座決定戦」をはじめ、多彩な催しを通じ、新たな文化を発信するとともに、町内外から多くの方々に御来場いただきました。

以上で、「教育への取組に対する意見交換」についての資料説明を終わります。

【田中町長】

ありがとうございました。ただ今の事務局の説明に対して御意見・御質問ありましたらお願いいたします。

【田中町長】

プールについて、子どもから数が多くなってよかったと聞いていますが、実際どうでしょう。アンケート調査によると良いということで、環境も綺麗であるし、先生がプロになりましたが。

【渡部教育委員】

好評です。泳げなかった子が泳げるようにもなった例もある。維持管理の側面もありますし、先生も助かったと思う。

【田中町長】

これは継続で続けていけばいいですね。

【渡部教育委員】

はい。是非。小学校は今後、現状のままでプールを存続していくのかというのは。

【田中町長】

小学校は受け皿が厳しい。町内で水泳指導しているところが限られており、キャパが難しいのでまずは中学校だけ。

【渡部教育委員】

プールも改修時期が迫ってきているので大変。

【田中町長】

あとG I G Aスクール。国策でやっているのだから仕方ないと思うんですが、国々は失敗して教科書に戻していると聞く。これは日本ミスしたんじゃないかと思うんですけど、使い方がなと思います。

私も科学、社会、地理など好きだったんですが、これらがいいところは見れるところ。科学の実験で言えば、実際に炎色反応を動画で見えたりすればすごくいいと思う。実際にできなくても、例えば障がいのある子どもたちでも家で動画を見るなどできるのはすごくいいなと。使い方次第のところもある。これ使えないと今後人材としてどうなのかという話もあるので、小さい頃から触れる方が絶対良いとは思いますが。国の方策が、今後デジタル教科書などもどうなっていくのかなと思います。結構、ヨーロッパなどが数学力が下がったらしく、紙の教科書に戻していると耳にするので。日本も戻るのではないかなと思う。これはうちで判断できる問題じゃないですからね。

【足立教育長】

私はG I G Aスクール始まったときは退職したのもあって学校の様子は見れてないんですけども、タブレットは国が買ってくれるにしても、いろんな面で経費がかかるなと。通信や環境整備など。

今の子どもの将来的なことを考えると使わないという選択肢はないですよ。先生もまだどのように使っていくのがいいのかというのが十分ではない。特に年配の先生は全員ではないがかなり厳しいところ。

【田中町長】

実際しんどいですよね。いきなりこれで教えろと言われても無茶があると思います。頑張れと言われてたら頑張るでしょうけど。

【足立教育長】

教科書も当面はハイブリッド式としていますが、2030年の新しい指導要領の移行期くらいからデジタル教科書の採用について検討を進める必要があるし、デジタル教科書になったら、環境が整っているだろうか。町内の学校一斉に開けるだろうか。それらを整備するとなると、お金のことばかり言うのはいけないが、かなり厳しいところはある。

【田中町長】

これは国の動向を見ながら。国は選択肢を投げているんですか。別に今までどおりを選んでもいいと。

【足立教育長】

教科書の選択はそうだと思う。ハイブリッド方式になるだろうと。

【田中町長】

それであればもう外国で結果が出ているからいらないと思う。無理に失敗した策をなぜ日本でする必要があるんだろうと。

【足立教育長】

今、中学校の英語は全部デジタル教科書を配布していますが、教員に聞くと、正直なところ手間。ただ、デジタルにすると英語の音声が入ったり発音がちゃんと出てきた

り、拡大できたり縮小できたりする。

【田中町長】

教科書ではなくてそれを別に端末を持っていてネット環境だけで別に十分できると思う。デジタル教科書の必要性はないと思う。

【足立教育長】

今の英語の教科書はQRコードを読み取るとそのまま単語も読んでくれる。便利で早いので、どうしてもそっちを使ってなかなかデジタル教科書を使いきれてないのが現状。先生の負担ばかりになってしまうとどうなのか。

【田中町長】

働き方改革、業務改革と言いながら負担が増えては意味がない。

【足立教育長】

懸念はあります。

【田中町長】

あとは不登校対応。不登校はやはり増加傾向が続いている。

【足立教育長】

町内の集計を取っているが、松前町は今の段階で中学校は昨年よりも減っている。ところが、小学校は増えている。12月末の段階で、小学校と中学校が同数。不登校支援を中学校に配置していただいた効果が見られるのかなと。それに対して小学校が配置できていない。別室は作ってもらっているが、対応する教員が少なく、学級担任が受けている。小学校に配置の必要が増えるとは私も思っていなかった。

【田中町長】

3校ともに増えているのか。

【足立教育長】

はい。小学校2、3年あたりが。小学校の校長も支援員をサポートルームに配置をと。

【田中町長】

何が嫌なのかとか理由は違うんですか。いじめや先生が怖すぎるとか、理由は何か。

【坪内教育委員】

3年に上がる準備段階ですごく元気になる。ギャングエイジという。その年代で学校に行くのが嫌になるというのが、私が勤めた時代とは随分変わってきている感じがする。また、やはり2年生というのは小学校1年生で学校生活に慣れて、仲間もできて、教える側としては少し楽になる、学習もやりやすくなる、自由な雰囲気がないこともないかもしれません。また、親の子離れもなかなか難しい時期ではあるんですけども、2、3年生で不登校が増えているのは私も不思議だなと感じています。

【田中町長】

何故かというのは聞ける範囲で聞いたりしているのか。

【足立教育長】

友達関係であったり、特に理由が見当たらないことも。

【郷田教育委員】

夜寝ていないんですよ。睡眠量の不足。朝起きれないから学校が嫌になる。家で寝て

いたい。家で何をしているかという、膨大な時間テレビやスマホを見る。特に小学校3年生くらいから始まると思う。

【田中町長】

家庭環境も影響あるか。

【坪内教育委員】

私はあると思います。

【渡部教育委員】

学校に今年目標みたいなものが貼ってある。早寝早起きとほとんどが書いている。ということはできでいないということです。

【田中町長】

体の疲れがストレスにもなっている。

【郷田教育委員】

学校で集中を欠いている状態があったら先生にも怒られたり注意もされるので、ストレスも増幅されるでしょう。もう一つは食事の適切な栄養管理ができていないか。余談かもしれないが、年末冬休み時期に2人の小学生がカップラーメンを買って大事そうに抱えて帰っていました。栄養が偏ってないかと思うんです。冬休みは給食がないので。それと睡眠の不足。これが小学校3年生くらいでかなり影響が出ていないかと思う。日本中で。やっぱりよく寝てよく食べて遊ばないといけない。

【渡部教育委員】

やっぱり朝食は大事なんですよ。他県で学力テストのデータを見ると、朝食を食べている方が良いという分析はしていました。また、子どもは菓子パンを欲しがりますが栄養面で良くない。

【田中町長】

菓子パンは良くないらしいですね。急に血糖値が上がってイライラを増幅させたり肥満にも良くない。朝、菓子パンばかり食べる子は恐らく午前中でエネルギー切れを起こしてイライラする。食パンはいいが、チョコなどが入っている菓子パンが良くない。

【渡部教育委員】

女子の運動選手が、軽いパンを食べたら体重が減ると思って食べている子がいたので栄養士が指導していた。

【坪内教育委員】

2、3年生の話で出たが、保護者が夫婦共働きであると、家で気ままな暮らしをする。さっきもゲームなど言っていました。気ままな暮らしをしている子どもが、学校で規則正しい行動をするということに抵抗を感じて育っているんじゃないか。それが2、3年生の年頃で発散したい子は、それがストレスになるのではないかとも思ったりします。家庭で我慢する気持ちやいろんなことを教えてくれないのもあると思うし、朝食の件ですが、前日の夜19時頃に食事をしたとすると、朝食を食べなかったら、給食まで何も食べずに過ごすわけです。その間に体育があったり水泳があったりすると、子どもたちはエネルギー切れを起こして勉強する意欲が失せてしまう。だから、朝食は大事だということを、私も現職時代は保護者に伝えていたが、親の考え方を変えていかないと子どもの生活はなかなか元に戻らないと私は思っている。

【田中町長】

朝ごはん推進運動でもしましょう。自分の子どもにどう影響するか分かれば少しは気をつけてくれるのではないかと思うんですが。

【坪内教育委員】

おにぎりを作るだけでも違う。それが面倒でできない人もいる。

【田中町長】

最近では時間をかけない人が増えた。家庭に置き換えると、ちょっとしたことをしない。

【坪内教育委員】

その積み重ねが子どもに影響する。

【渡部教育委員】

昔に比べて外食も増えた。

【田中町長】

現場でできるとしたら、朝食を食べるところなるということを情報発信する。広報誌でも子育てのコラムを載せ続けるなど。それを若い世代が読んでくれるかどうかは未知数ですが。

【渡部教育委員】

先ほどの菓子パンの話は載せてほしい。

【大川総務部長】

健康課あたりがそれは常にしていますね。お菓子の内容ですが。

【足立教育長】

今は健康課や子育て支援課が親への教育の話など知識を提供する場を設けているが、昔はPTAが講演会や研修会をしたり公民館の活動などあったが今の学校ではほとんどない。そして実施したとしても来ない。親にゆとりがない。

先ほどの坪内教育委員の話でもあったが、家で好きなように過ごしている子どもが学校で規則正しい生活が辛くなる。そのとおりでと思う。私は学校も弾力的にできないかと思う。先日、外国籍の子の親の話を聞いたが、その方は日本の小学校はルールが多すぎて意味が分からないという印象だったそうだ。学校も考えていけないといけないうことは以前から言っているんですが、やはりどこまでルール化するという線引きが難しい。

【田中町長】

次の議題に入ります。議題3について説明をお願いします。

【柏原学校教育課長】

資料3の上の枠に記載している概要を御覧ください。令和7年6月に成立した改正給特法（正式名は、公立の義務教育諸学校の教育職員の給与等に関する特別措置法の一部を改正する法律）に基づき、サービスを監督する教育委員会は、文部科学大臣が定める指針に即して「業務量管理・健康確保措置実施計画」を定めることとされました。これを受け、文部科学大臣が定める指針に、実施計画を策定する際に踏まえるべき内容が新たに位置付けられたものです。その改正について、①から⑤までのポイントが記載されています。

まず、①は、働き方改革の目的は、教育職員の「働きやすさ」と「働きがい」を両立し、子どもたちにより良い教育を行うことであり、教育の質の向上に向けて働き方改革を進めるための基本的観点を示されています。

②は、勤務時間・在校等時間の考え方を示した上で、上限時間を示し、業務量の適切な管理を求めています。

③は、教育委員会は実施計画を定めること。また、策定した実施計画、毎年の実施状況の公表及び総合教育会議への報告等の仕組みを通じて、地方公共団体との連携を図りつつ、取組の更なる改善につなげることが必要と示されています。

④は、教育委員会が講ずべき措置の内容として、教育職員の勤務状況に関する状況を把握し、必要な環境整備等の在校等時間の長時間化を防ぐための取組を実施すること、学校と教師の業務の3分類を踏まえ、学校又は教育職員が担っている業務の分担の見直しや適性化を図ることなどが示されています。

2ページを御覧ください。学校と教師の業務の3分類の詳しい内容が示されております。一番左は、「学校以外が担うべき業務」で、1の登下校時の通学における日常的な見守り活動等から5までの業務については、学校が担わないような措置を講じることとされています。真ん中の「教師以外が積極的に参画すべき業務」は、6の調査・統計等への回答から13までの8業務について、業務量の縮減、デジタル技術の活用の推進、事務職員及び支援員その他の学校における教師以外の担い手の、これら業務への積極的な参画の促進のために必要な措置を講じることとされています。右側「教師の業務だが負担軽減を促進すべき業務」は、14の給食時間における対応から19までの6業務について、負担を軽減するために必要な措置を講じることとされています。教育委員会は、これらを踏まえて、3分類の業務の見直しについて、優先的に対応するものから「業務量管理・健康確保措置実施計画」に反映させることとしています。

3ページから5ページについては、参考資料として、今回の給特法改正と教職員の働き方改革についての文部科学省のパンフレットを記載しております。

続けて6ページを御覧ください。教育委員会が実施計画を作成するにあたって、国からの指針に即したひな型が作成されましたので、これを参考として、今年度中に松前町教育委員会の実施計画を作成することといたします。

以上で、「教職員の働き方改革について」の説明を終わります。

【田中町長】

ありがとうございました。ただ今の事務局説明に対して御意見・御質問はありますでしょうか。

【足立教育長】

働き方改革については、教育委員会の方から町長、役場の皆さんにこういうことがあるということを知っておいていただきたいという意味で議案にさせていただきました。時間外対応については超過勤務時間を1か月45時間以内、1年間で360時間以内ということは月平均30時間以内に収めなさい、月80時間を超える教職員は早急に直せということなのですが、100時間を超える職員が出てきている状況。80時間を何か月も超える職員については校長が呼び出して内容を報告させて、場合によっては産業医の面接を受けさせる。教育委員会にも呼び出して、事情を聴くようなことを対応すると該当はいなく

なるが、こちらの予想では、報告上は帰宅したことにして残業をしている可能性がある。校長会で実態は把握しており、まず目標としては80時間以上は早急に無くす。でも80時間は中学校で部活をしていたらあつという間です。部活動休みも作って対応していかないといけない。

先ほどの資料2ページ目に、文科省が分類した学校がしなくていい仕事で、登下校指導や夜の補導、学校徴収金などが記載されているが、具体的に松前町はどうするか計画を出すことが義務化になった。来年度4月1日から義務化になって、総合教育会議に報告して公表しなさいという義務が課せられるようになったので知っておいていただきたいと思う。文科省から自治体や各方面に向けた資料が資料5ページ目にあるが、町長部局と教育委員会が協力して働き方改革を進めないと教員がいなくなる。愛媛県も競争率は明らかに低下してきているし、現状、休む先生が出てきたら補充の先生はもう見込めないで、教頭が担任しないといけないとか、場合によっては校長が授業に行かないといけないというのが出てきます。今の状況を当たり前と続けていくと、やがて先生が足りなくなることが目に見えているので、ここはメスを入れないと危機的な状況になってしまうのではないかと思います。

また、教育委員会も先ほど課長の説明した業務改善計画について、また先生の健康保持のための計画を策定して4月1日には学校・地域にも提供して、また町長部局の方にも見ていただいて進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【田中町長】

ありがとうございます。その他、御意見御質問ありますか。

【大川総務部長】

ちなみに、学校の勤怠管理の方法は。

【足立教育長】

パソコンで出勤時間と退勤時間をグループウェアに手入力。タイムカードの導入も考えたことはあるが、結局は同じなので。

御存知のとおり手当がないので、調整額の4%が、1%ずつ引き上げられて、将来10%になる。その代わり出たのが時間外を管理していくこと。

先日の校長会の話題になったが、松前町の電話録音機能について、受電時のアナウンスの効果ありとのことで、18時以降電話は来なくなったとのこと。PTAからも時間外の電話については言ってくれているようだが、教育委員会からも啓発は必要かなと。

【田中町長】

その他大丈夫でしょうか。では、他に御意見もないようですので、それでは本日の議事を終了したいと思います。なお、委員の皆様にはお忙しい中、総合教育会議に御出席いただき、貴重な御意見をいただきまして、誠にありがとうございました。それでは進行をお返しいたします。

【戸井田企画政策室長】

皆様、本日はお忙しい中誠にありがとうございました。本会議の内容につきましては、改めて議事録を作成しまして、議長から御指名のありました二名の方へ後日御署名の御案内をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

では、以上をもちまして、令和7年度第1回松前町総合教育会議を終了します。